

【 短 歌 。 俳 句 。 川 柳 】

短 歌

我が仕事一区切りした七年よななとせ

七十前であと一花を

●宮古市 太田屋滋

震災が過ぎ去りし日々コロナ禍に

我徒に齢を重ね

●朝霞市 林 則雄

野面積み聳え立つのは天守閣

武者の声聴く雲海の底

●松戸市 秋元輝美

二月から日々の温度を足し算し

六百度越え桜咲き初む

●小金井市 飯田勝巳

コロナ禍で夫婦別室会話なし

食事は一緒寝室別居

●狛江市 根方一吉

春来たり剪定されし木蓮に

濃い紫の花が一杯

●羽村市 中 新一

一打差で準優勝と刻まれる

足どり軽く帰路初燕

●平塚市 田中博由

桜咲き車に乗りて走り見て

気に入りし花降りて撮るなり

●笛吹市 植松正幸

俳 句

連翹垣低くうねりて裏小路れんきょう

●本庄市 長谷川千鶴子

八橋の足へひろがる犬ふぐり

●戸田市 篠崎志津子

バーボンとサッチモに酔う春の宵

●東京都大田区 小池弘一

コロナ禍や夏もマスクを外し得ず

●東京都練馬区 山口昭義

突風の乱暴狼藉こぶし散る

●立川市 浅見 眞

六地蔵袈裟新しく春の風

●塩尻市 大家協治

オオイヌノフグリ星屑地の銀河

●塩尻市 奥原光夫

コロナ禍で卒業証書スクリーン

●塩尻市 小野正平

土もたげ土筆の穂先見えかくれ

●塩尻市 永原良子

黄水仙野の風あそぶ道祖神

●塩尻市 町田まさ子

鮮やかな神社の絵馬や桜咲く

●可児市 井戸和秋

夕日影散るや残花の一握り

●焼津市 松永文雅

どこぞより浮かび来し花田引き水

●野洲市 若松能夫

乱舞する紋白蝶達花の中

●福知山市 岨尾 充

満開の円山公園花見酒

●長岡京市 宮先一雄